令和４年度山口県立大学国際文化学部国際文化学科
外国人留学生選抜「小論文」問題用紙

次の文章を読んで以下の問１、２に答えなさい。

仕事について実現見通しのある希望を持っている人の特徴として、実は職場を離れた友人・知人が多いことがわかったのです。職場の仲間でもなければ、家族や親戚でもない。もっと別の友人・知人で、自分のことを評価してくれたり、期待してくれたり、ときに心配してくれたりする人々がいる。そんな人ほど、仕事に希望を持っていたのです。

なぜ毎日の仕事とは直接関係のない友人の存在が、仕事の希望につながるのでしょうか。

私はこの結果に出会ったとき、社会学の「ウィーク・タイズ（Weak Ties)」という考え方を思い出しました。ウィークとは「弱い」とか「緩やかな」という意味で、タイズとは「つながり」や「絆」を意味する言葉です。ウィーク・タイズは、米国の社会学者であるマーク・グラノヴェターが提唱した転職についての考え方です（グラノヴェター　1998)。

グラノヴェターによれば、自分と異なる情報を持っている人とのゆるやかなつながりが、転職を成功させる条件として重要だというのです。この自分とちがう環境にある人との、たまに会う程度のゆるやかなつながりが、ウィーク・タイズです。

日本では、これまでウィーク・タイズの重要性は、あまり認識されてきませんでした。まず日本は、米国ほど転職が一般的ではありませんでした。それに、転職をするとしたら決め手になるのは、友人とのゆるやかなつながりではなく、むしろ血縁や地縁などにもとづく強い「コネ（人脈)」だと信じられてきたからです。

ところが、日本でもウィーク・タイズの有効性は確実に高まりつつあります。私が以前『仕事のなかの曖昧な不安』で紹介したことの一つは、1990 年代以降、日本でも転職について、やはりウィーク・タイズが効果的になってきている事実でした。転職では、資格が大切だとか、語学力が大切だといわれます。しかしそれよりも大切だったのは、友人とのゆるやかなつながりでした。転職に際して有益な助言をしてくれた職場以外の友人・知人がいた人ほど、転職した後の満足や給料などが明らかに高くなっていたのです。

なぜ転職にウィーク・タイズが重要なのでしょうか。転職では、いかにして自分に適した仕事に出会うかがポイントです。しかし自分一人で考えているだけでは、本当に自分に向いている仕事を知るのには、限界があります。そんなとき、家族や職場の同僚に相談する人もいるでしょう。しかし日常的にいつも一緒にいる人というのは、案外、自分と同じような情報や判断材料しか持っていないものです。

それに対し、遠くにいてたまに会うくらいの関係にある人ほど、自分と異なる経験をし、自分と異なる価値観を持ち、自分と異なる情報を持つことが多かったりします。自分とちがう環境にあり、同時に信頼のできる人の話に耳を傾けるうち、「ああ、これが本当に自分のやりたい仕事、自分にできる仕事なんだ」という希望の発見があるのです。

グラノヴェターは、ノイズ（雑音）のない正確な情報によって判断するには、自分の周りだけで閉じていない、開かれたウィーク・タイズが効果的であることを強調します。いつもいっしょにいたり、毎日のように連絡を取りあう友人がいることは、安心感を与えてくれます。一方で、いつも会うわけではないけれど、ゆるやかな信頼でつながった仲間は、自分の知らなかったヒントをもたらしてくれるのです。

（ー中略ー）

転職や独立にかぎらず、今や働くことそのものに、ウィーク・タイズの重要性は増しているようです。かつて仕事をするということは、会社という組織に所属し、その固定メンバーになることが、なにより求められていました。同じ組織の同じメンバーの強い結束（ストロング・タイズ）の下にあることが、仕事のやり方や成否を左右していたのです。

（出典：玄田有史『希望のつくり方』岩波書店、2010 年、84-87 頁。出題のため、一部を省略、改変している。）

問１　著者は「ウィーク・タイズ」の有効性をどのようにとらえていますか。本文に即して 200 字以内で述べなさい。

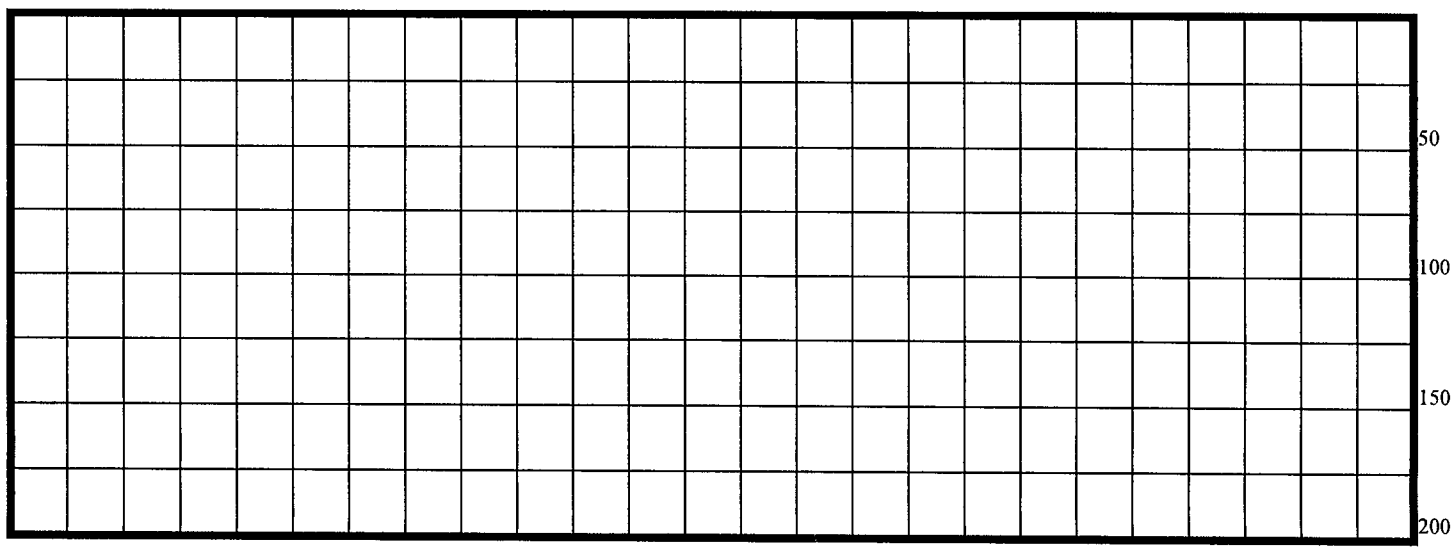
問２　著者の述べる「ウィーク・タイズ」の考え方を用いて、グローバル化が進む今日において、ウィーク・タイズが文化を越えて機能する場面を、具体的な事例を取り上げながら、600 字以内で述べなさい。

令和４年度山口県立大学国際文化学部国際文化学科
外国人留学生選抜「小論文」解答用紙

受験番号	

問１

→横書き



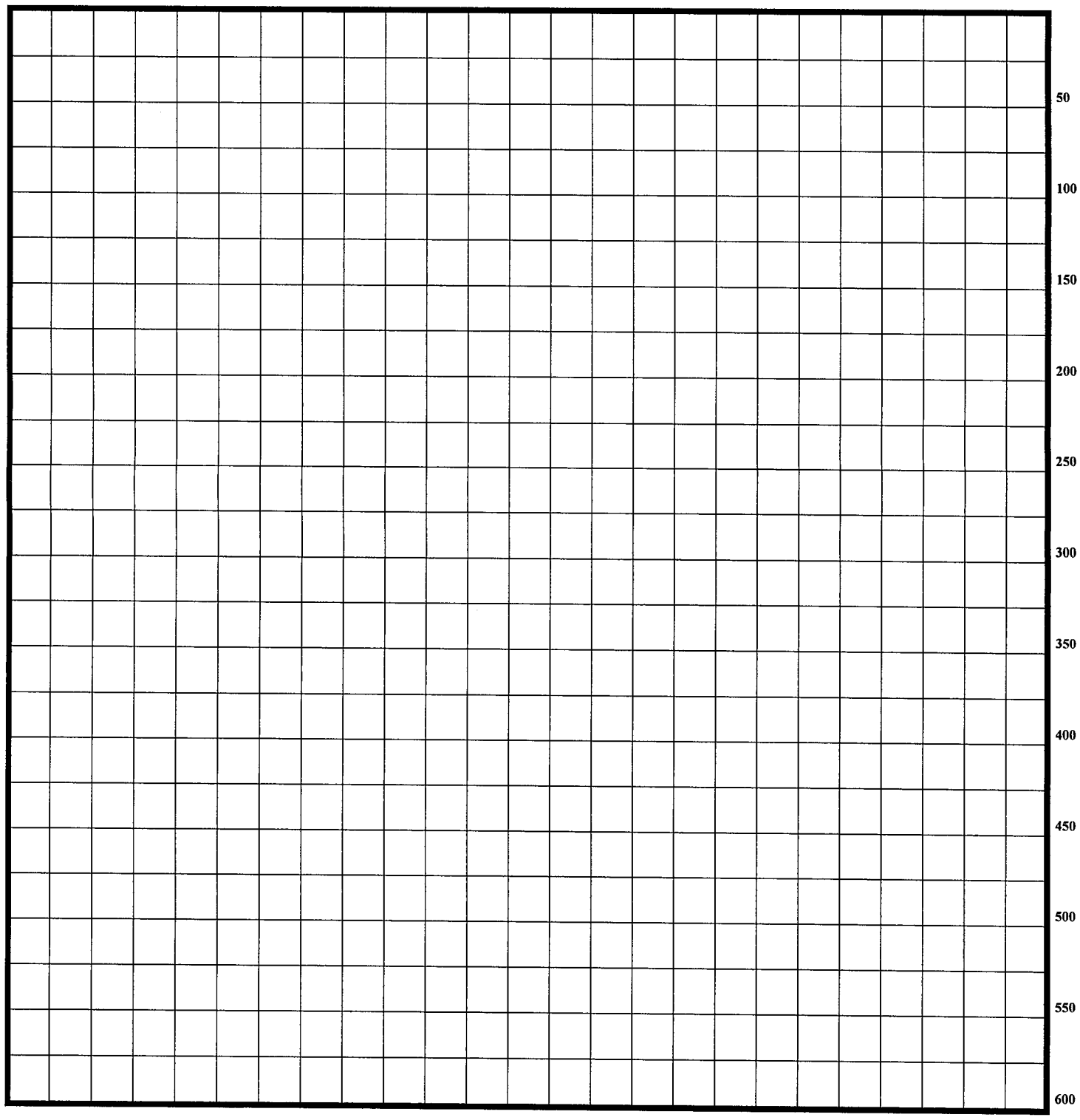
得点

令和４年度山口県立大学国際文化学部国際文化学科
外国人留学生選抜「小論文」解答用紙

受験番号	

問２

→横書き

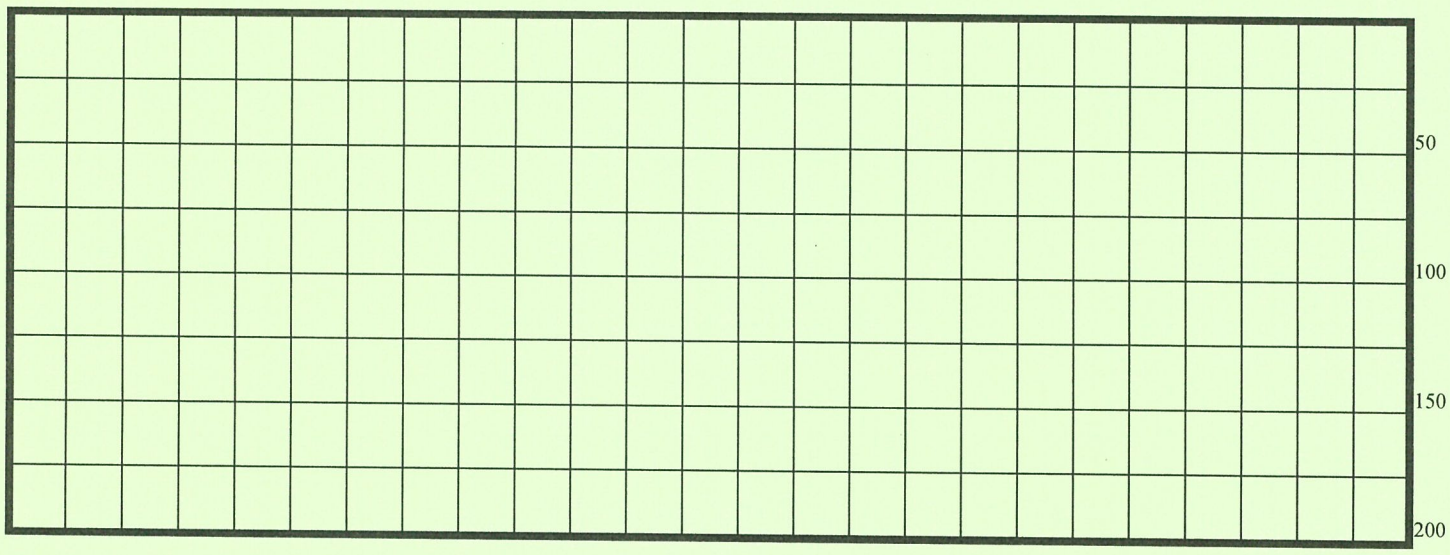


得点	総得点

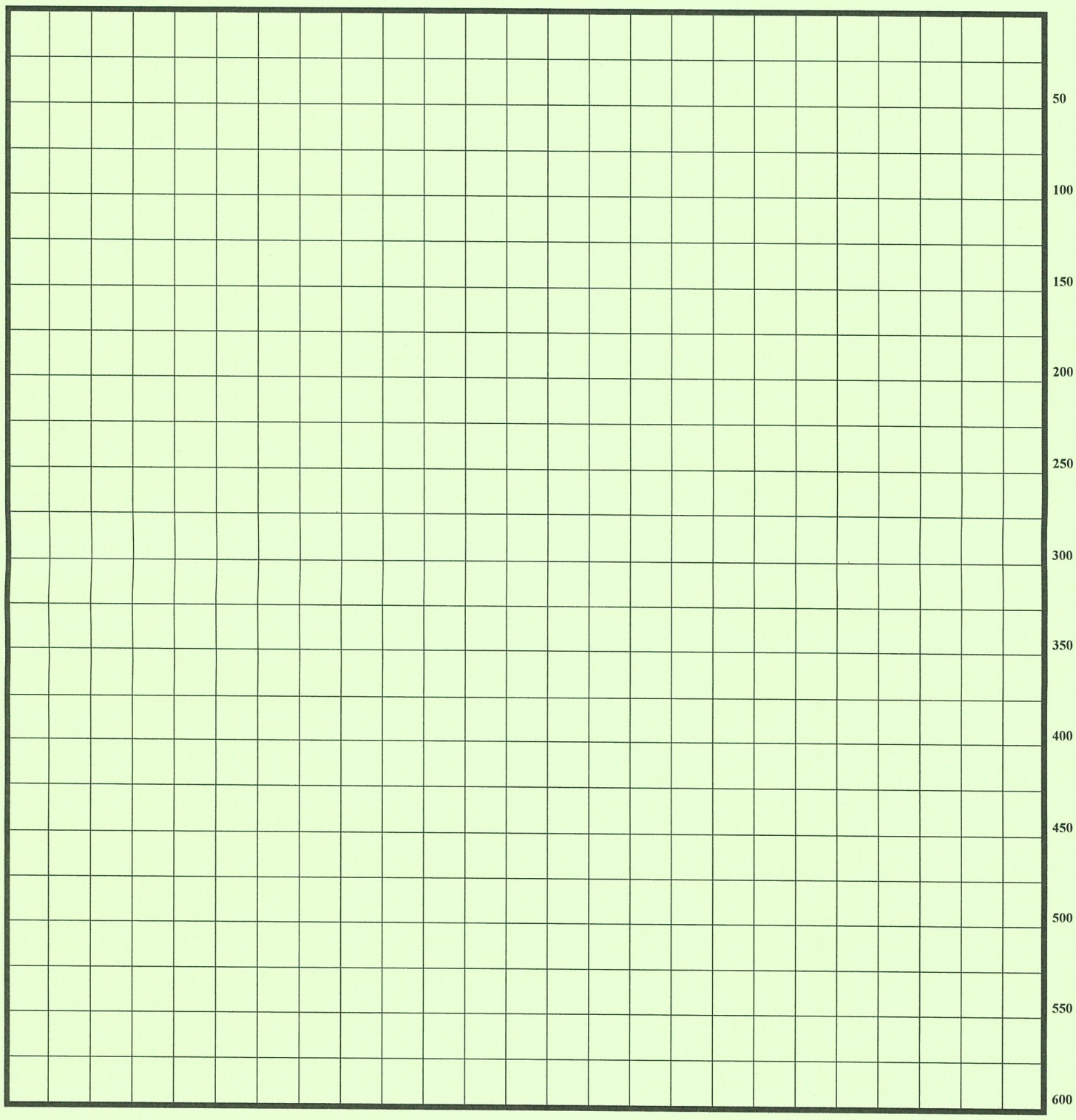
令和４年度山口県立大学国際文化学部国際文化学科
外国人留学生選抜「小論文」下書き用紙

問１

→横書き



令和４年度山口県立大学国際文化学部国際文化学科
外国人留学生選抜「小論文」下書き用紙

問２

→横書き